

106歳を生きる

篠田桃紅

Toko Shinoda Things Transient - Colors of Sumi, Forms of the Mind

とどめ得ぬもの 墨のいろ 心のかたち

2019年8月1日(木) - 10月14日(月・祝)

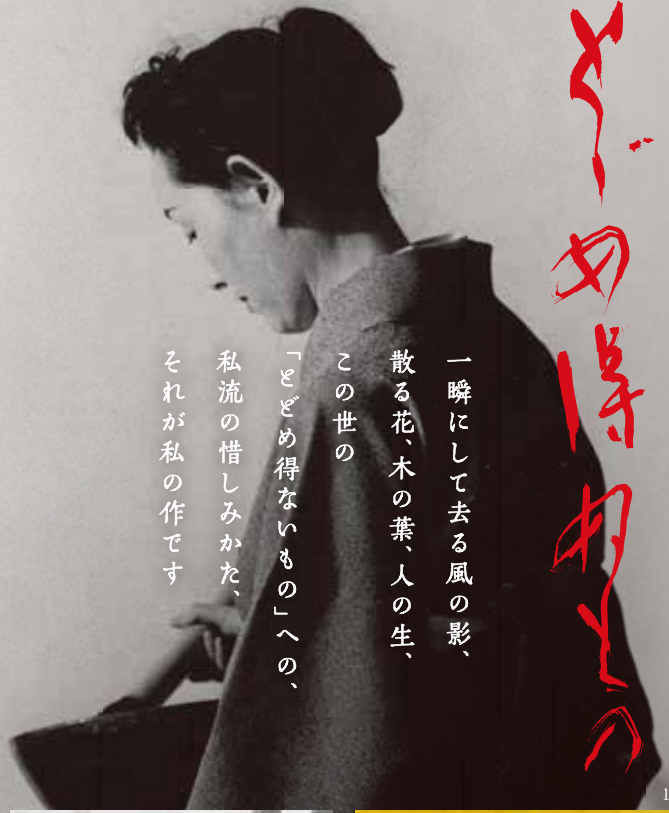
休館日 月曜日 ※但し8月12日、9月16日、9月23日、10月14日は開館、祝日の翌日は休館

開館 午前10時 - 午後5時(入館午後4時30分まで)

観覧料 一般800(600)円、大高生500(400)円、中学生以下無料 ※()内は20名以上の団体料金

主催 公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社
協力 公益財団法人岐阜現代美術館、鍋屋バイテック会社

とどめ得ぬもの



一瞬にして去る風の影、
散る花、木の葉、人の生、
この世の
「とどめ得ぬもの」への、
私流の惜しみかた、
それが私の作です

この春、106歳を迎えた美術家 篠田桃紅。
文字の形にとられない水墨抽象画という独自のスタイルを確立し、
今もなお新たな表現に挑戦し続けています。
桃紅は、自然や時代の変化の中に漂いうつろう、
「とどめ得ぬもの」に寄り添い、そこに見出した一筋の「墨いろ」の線は、
無限の広がりを感じさせるリズムを奏でます。
本展では、桃紅が日本の古典文学と書法を学び出発した初期の作品から、
文字を離れて墨の色や線を追求し、
独自の抽象表現を確立したニューヨークでの挑戦とその後。
そして、余分なものを極限まで削ぎ落として新たな形に昇華し、
一瞬の「心のかたち」を追求し続ける現在までの変遷を、
約70点の作品と資料を通してたどります。

篠田桃紅 一しのだとうこ

1913年中国・大連生まれ。5歳の頃から、父に書の手ほどきを受けて墨と筆に触れ、
以後独学で書を極める。第二次世界大戦後、文字を解体し、墨で抽象を描き始める。
1956年単身渡米、ニューヨークを拠点に、ボストン、シカゴ、パリなどで
個展を開催し、欧米のアートシーンを牽引してきた。
壁画やレリーフといった建築に関わる仕事や、東京・増上寺大本堂の襖絵などの
大作制作の一方で、リトグラフや装丁、題字、随筆ほか、活動は多岐にわたっている。



関連イベント

講演会

篠田桃紅
墨のいろと心のかたち

講師：宮崎香里氏
(公益財団法人岐阜現代美術財団
岐阜現代美術館 シニアキュレーター)

開催日…2019年8月4日(日)
時間…午後1時より
定員…50名

参加費…1000円 ※本展の入場料を含みます
〔参加申込方法〕往復はがきに住所・氏名(返信用にも)、
電話番号を明記のうえ、下記宛先までお送りください。
参加希望者は1名につき、1枚の往復はがきで
お申し込みください。

7月19日(金) 必着

〒6580048
神戸市東灘区御影郡家2丁目12-1
香雪美術館「篠田展 講演会」係

上映会

「私の前に道はなかった」

篠田桃紅 105歳の軌跡

上映日…会期中の土、日、祝日
※但し、8/4、10/6、13、14を除く。
時間…各日2回上映、約25分
① 午前11時
② 午後2時

※上映会は、別途展覧会の鑑賞券が必要です。



交通案内

阪急「御影」駅南改札口より東南へ徒歩5分
JR「住吉」駅より北西へ徒歩15分
阪神「御影」駅より市バス19系統で「阪急御影」下車徒歩5分

〒658-0048 神戸市東灘区御影郡家2丁目12-1
Tel 078-841-0652 Fax 078-841-1402
<http://www.kosetsu-museum.or.jp/mikage>



香雪美術館

KOSETSU MUSEUM OF ART

表面:「月読み」1978年* / 裏面:1「とどめ得ぬもの」2017年 / 2「星霜」1954年*
3「吾を待つと 万葉集」1955年以前 / 4「行人」1965年* / 5「暁」2007年*
6「百」2012年 / 7「萩原朔太郎 詩」1950-54年 / 8「越くら山」百人一首カルタ
2011年 / 9「時間」1958年 写真は帰国直後の篠田桃紅 1958年
*印は公益財団法人岐阜現代美術財団蔵、他は鍋屋バイテック会社蔵

次回展

コレクション展「武家と茶の湯」
2019年10月26日(土)～12月20日(金)

中之島香雪美術館 展覧会情報

特別展「交流の軌跡 — 初期洋風画から輸出漆器まで」
2019年10月12日(土)～12月8日(日)